

everyone's voice

みんなの 声

投稿テーマ 雨から生まれたエトセトラ

7.13水害の時、朝から豪雨の中、自転車を諦め徒歩でぶぬれになって歩いていたら、社長自ら迎えに来てくれました。社長の車が見えた時の嬉しかった気持ちはきっと一生忘れられません!その後一旦家に帰り、着替えの時間まで与えてくれました。ありがたかったなあ。 投稿者 りささん

たしかあれは2004年、中之島地域で豪雨が起きた年でした。高校生だった私は部活動の一環として復興活動に参加しました。そこで初めて自然災害というものに触れ、自然の恐ろしさを実感。感受性豊かな歳頃ですからいろいろな驚き、発見をしながら、土砂の運搬を手伝いました。地域の方々から差し入れて頂いた梅干しをよく覚えています。味が良かったからか、汗をかいて塩分不足だったからか、こんなに美味しい梅干しは無い!と感動しました。地域の方々から頂いた「ありがとう」の言葉と、格別のおもてなしは忘れられません。

投稿者 小国地域むすび隊 品川賢太さん



越路地域の消防団に所属しています。越路には父の実家があるので「いつか戻ってくるよ」と言われ、若手の入団で歓迎されています(笑)。先日、燕市へ水防訓練に出かけてきました。色々な工法を試しましたが、みんなで「地域を守る」というひとつの目的を達成するために汗を流すっていいな一つて思いました。

投稿者 雨もしたたる良いメガネさん

小学生の頃、お気に入りのピンクの傘が壊れて落ち込んでいた私。祖母が傘の生地をリメイクしてバッグを作ってくれたのです!おばあちゃんの知恵はすごい!雨にも強い丈夫なバッグは私のお気に入りになりました。ずっと忘れてたけど、この投稿をきっかけに思い出させてほっこりしました!

投稿者 くゆさん

寄せられた投稿は
つながりで
読まれるかも!

投稿 募集中

7月の投稿テーマ

誰かと一緒に夏祭り

【募集期間】6/21~7/20

投稿
方法

投稿フォームを使う

QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。



協働センター窓口で投稿する

協働センター窓口を設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。

つながる
ラジオ

週替わりで市民活動団体を紹介するFMながおかのラジオ番組。

■放送局: FMながおか (80.7MHz)

■放送日: 毎週月曜日17時頃~(10分間) ※第5月曜日を除く

column 市民活動・虎の巻

待っているだけではもったいない
メディアに取材されるためのコツ

機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会 平沢政明さん

摂田屋地域の宝「機那サフラン酒本舗」を後世に残すため、ボランティアの力をお借りしながら保存・維持・管理しています。新聞やテレビなどのメディアを活用して活動を紹介していただくため、折に触れ自分達はどういう団体なのか伝えることを意識しています。目的や活動内容をコンパクトに説明できるようにしておくといいですね。プレスリリースは遅くとも月刊雑誌なら発売2カ月前、新聞・webなら1週間前に。取材で生まれた記者とのつながりは大切にしてください。発信したいことを相談すると真剣に向き合ってくれる記者もいますから。やはり、最も重要なことは普段の活動をしっかりとやっていることです。そのうえで活動をこまめに画像や映像に残すことも忘れずに。それらを自身のHPやSNSで情報発信すると、思わぬ取材依頼が舞い込むかもしれませんよ。

※この記事はWEBサイト「コライト」からの抜粋です。



information センターからのお知らせ

越後長岡まちの駅
シールラリーの旅2017

平成29年7月24日(月)~9月30日(土)

人や情報が集まる場所。それが越後長岡まちの駅です。まちの交流拠点、まちの駅を巡って「ご当地キャラクターシール」を集めると、各駅の特徴ある素敵な景品が抽選で当たる「シールラリーの旅2017」を今年も開催します。まずは市内に60あるまちの駅で、「越後長岡まちの駅シールラリーの旅」のパンフレットをゲット!



今年も
巡ろう!

まちの駅
参加店の
目印は
このほり!

らこら

2017.7.1
(vol.55)

FREE

【発行】ながおか市民協働センター

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail. kyodo-c@ao-re.jp http://nkyod.org

配布場所

長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

知る、つながる、好きになる ながおか市民活動情報誌

らこら

Racotte
vol.55

発行 ● ながおか市民協働センター

2017
7
FREE

あの人の活動を支える市民活動界の助演男優賞
目黒秀平さん



interview
インタビュー



スポーツを切り口に交流の場をつくり出すママ

樺澤裕美さん

●団体PickUp!

「妄想から始まるアイデアで
森と暮らしをつなぐ」

WISO

「人材育成で森林の健康増進」

チーム木念人

「長岡の伝統文化を修めて広める」

替女唄ネットワーク

「野生生物と人間が『共に在る』環境づくり」

特定非営利活動法人ワイルドライフリサーチ

●長岡企業のソーシャルアクション!

「子育てママの日常に彩りを」

小出建設株式会社／アトリエ

●みんなの声

投稿テーマ「雨から生まれたエトセトラ」



コライト、見ないと!

コライト

検索

ながおか市民協働センターは、地域をより良くする市民の活動が集まる拠点です。協働センターのwebサイト「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。らこらからのバックナンバーも閲覧できます。ぜひご覧ください。



毎週月曜日17時頃から放送中!



FMながおか

80.7MHz

つながるラジオ

ながおかの
市民活動紹介番組

放送時間

10分程度
第5月曜日を除く



目黒秀平さん〈60歳／伝統工芸士(蒔絵)〉「小林茂の仕事」Oタスケ隊、アフリカンフェスタ in ながおか実行委員会

脇役なくして主役なし

“献身”だけではない支え続ける力の源泉

ドキュメンタリー映画『阿賀に生きる』、『チョコラ!』、『風の波紋』などを撮影・監督したことで知られる新潟県生まれの映画監督・小林茂氏。舞台裏には、二人三脚で制作を支える多くの市民サポーターの存在があったことをご存知でしょうか。長岡市に拠点を置く伝統工芸士・目黒秀平さんもそのひとり。

二人の出会いは、長岡市で行われた『阿賀に生きる』(1992)の上映会。「公害問題を捉えつつも、そこで営まれる人々の豊かな暮らしに焦点を当てている点に共感した」と自らも自主上映活動に協力するように。長岡では延べ1000人以上が訪れる大きな成果を残しました。

そのときの成功体験や、皆で協力し合うことの楽しさが忘れられず、『こどものそら』(2000)の制作を機に、小林監督が制作活動に専念できるよう「小林茂の仕事」Oタスケ

隊を組織。代表となった目黒さんを中心に、制作資金集めや事務作業のみならず、撮ったばかりの映像を観てみんなで編集のアイデアを出し合うなど、制作活動全般をサポートしています。

「映画制作には多くの人の力が不可欠。分け隔てなく誰に対しても真摯に向き合う小林さんの姿勢を尊敬しているからこそ、私のできる範囲で彼の助けになりたい」と目黒さん。小林監督も長い付き合いの目黒さんにアドバイスを求めることもあるなど、人一倍の信頼を寄せているのだとか。

プロジェクトが強い推進力を得るには、縁の下での力持ちとなるサポーターの存在が欠かせませんが、両者はまさにその好例。さらにその関係が何十年にもわたり継続している秘訣は、「自身の楽しみ」と「相手への尊敬」が活動の源泉にあることかもしれません。



●上：作品の舞台となった阿賀野川にほど近い、阿賀野市安田公民館で例年行っている『阿賀に生きる』上映会で壇上に立つ目黒さん。●左下：撮ったばかりの映像を前に、編集の打ち合わせを行っている様子。奥は小林監督。●右下：実行委員を務める「アフリカンフェスタ! In ながおか」で的一幕。ここでは目黒さんが、若い世代を後ろから支えています。



樺澤裕美さん〈33歳／団体職員〉総合型クラブY-GETS

暮らしのつながりに助けられ、そして今新たな居場所を育む

プレイヤーだから味わえる楽しさを大切に

樺澤裕美さんは、山古志を拠点にスポーツで地域活性化に取り組む総合型クラブY-GETSに所属。運動教室や卓球などのサークル活動に加え、子育ての駅「やまっこ」や放課後の児童の居場所「やまっ子クラブ」を運営しています。樺澤さんは、イベント企画や経理、運動指導、受付サポートなど幅広い業務を担う実働部隊の要のクラブマネジャー。「楽しむ!」をモットーに企画づくりをしています。若手の意見を大切にしながらベテランとの橋渡しをするのも私の役割です」。みんなで議論できる場にやりがいを感じると話す樺澤さんは、小学校時代からスポーツに親しみ、小学・中学・高校とバレーボール部で主将を務めたスポ根女子。培ってきたリーダーシップと打たれ強さ、周囲との連携力を発揮しています。

「嫁に来た当時は、雪上スポーツも好きで

雪は苦にならなかったし、近所の人々が声を掛けてくれ、すぐに環境に慣れました。しかし、中越大地震の仮設住宅暮らしをきっかけに、山古志を離れるママ友が多く、今後の生活を心配しました。でも、知った人が多く暮らし慣れた地での生活再建を選びました」。現在、夫と3人の子どもと義理の両親の7人暮らし。地域のつながりの深さが生活や子育ての支えです。

そんな暮らしの中で必要性を感じ、クラブで始めたのが、「やまっ子クラブ」。小学生の放課後を見守る環境がなく、家にこもりがちな地域の子どもの居場所を「地域にないなら私が作る!」と、スタートさせました。大学生から還暦を迎えた人までがスタッフを勤め、長期休暇には高校生も運営を手伝うそう。「クラブを多世代が集う交流の場にしたい」と新たな地域の居場所づくりに前向きに取り組んでいます。

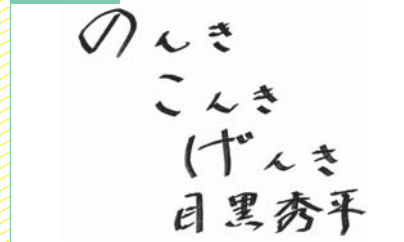


●上：平成27年度から「やまっ子クラブ」を始め、今年で3年目を迎えました。●左下：バレーボールに明け暮れた日々。部活動と家庭環境から周囲と協力する楽しさを教わったそう。●右下：3人の子どもを持つお母さん。自然が多く遊び場がたくさんある山古志も、遊び相手がいってこそと樺澤さんは言います。

profile

- 1956年 長岡市に生まれる。
- 1978年 大学卒業後、蒔絵修行で福島県会津地方へ。その後、長岡で現在の仕事に従事。
- 1992年 『阿賀に生きる』の上映活動に参加。その後、『こどものそら』の制作を機に「小林茂の仕事」Oタスケ隊としての活動スタート。
- 2013年 小林茂氏が代表を務める慈善団体が主催するイベント「アフリカンフェスタ! in ながおか」の実行委員に。

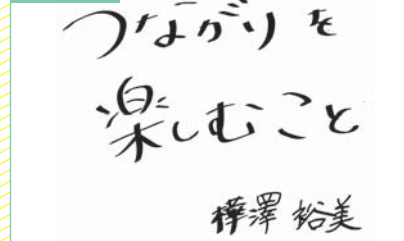
活動の根っこ



profile

- 1983年 中之島のスポーツ一家に三姉妹の次女として生まれる。
- 1992年 小学4年生でバレーボールを始め、小学・中学・高校と主将を務める。
- 2002年 結婚。翌年長女を出産。
- 2004年 中越大地震の翌日に次女を出産。仮設住宅での暮らしを余儀なくされる。2006年長男を出産し、翌年帰村。
- 2012年 スポーツ推進委員として、Y-GETSの立ち上げから関わる。翌年から現職。

活動の根っこ



団体PickUp!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

ワイス WISO

妄想から始まるアイデアで森と暮らしをつなぐ



森で遊びたいメンバーがおぐに森林公園を拠点に「森と生活を近づける」活動をしています。きっかけはメンバーが買った家が、庭付き一戸建てならぬ、「森付き」だったこと。そこからチェーンソー講習、枝から作るバターナイフづくり講座などを企画してきました。今年は「オグニ技スクール」と題して、ランチセットづくり、テーブルセットづくり講座を開催。これからも森林資源を楽しむ機会をつくっていきます。

こぜ 替女唄ネットワーク

長岡の伝統文化を修めて広める



長岡替女・無形文化財である故・小林ハルさんの替女唄を継承した竹下玲子さんを後援し、替女唄の普及、地方文化の発信を目的に平成3年に設立。竹下玲子さんより替女唄を習得した地元メンバーからなる「越後替女唄葛の葉会」を盛り立てながら、現在も替女唄公演活動を縁の下で支えています。今年4月に長岡替女の歴史を伝える案内看板を草生津の唯敬寺に設置しました。

ぼくねんじん チーム木念人

人材育成で森林の健康増進



「元気な森林に逢いたい!」を合言葉に身近な森林の手入れをし、森林を元気にすることの楽しさを広める活動をしています。毎年5・6月に開催する「ながおか森林塾」では、小規模な道具とわずかな労力で安全に楽しみながら、森林の手入れをする理論と実践を伝授。健康な森林に身を置くと清々しさに感動します。私たちの活動で多くの山が賑やかさを取り戻すことを願っています。

特定非営利活動法人ワイルドライフサーチ

野生生物と人間が「共に在る」環境づくり



野生生物と人間の共存を目指し、集落や行政に向けて鳥獣被害を防ぐための各種支援を行っています。効果的な獣害対策には、住民の自主性と行政の理解が大切。自主性を育む集落ファシリテーションや、行政担当者への研修などを行ってきました。今や新潟県の獣害対策は全国でもトップクラスに。近年では他地域の関連機関と連携して全国ネットワークを組織し、さらに活動の幅を広げています。

長岡企業のソーシャルアクション!

地域活動を支える企業をご紹介します

小出建設株式会社／アトリエ

子育てママの日常に彩りを

小出建設株式会社は見附市に本社を置く建設会社。長岡市内に持つ会社のショールームを活用し、主に子育て中のママ向けに豊かな暮らしを提案するスペース「アトリエ」を運営。料理教室やアロマテラピーなど、日常を彩るイベントを月5・6回程度開催しています。様々な人とも交流できるイベントの時間は、子育てのことを話し合ったりできる気分転換の機会ともなっています。

